

総 括 調 査 票

事案名	(16) 国立大学法人の教員数調査 (国立大学法人運営費交付金)			調査対象 予算額	平成 24 年度：1,136,612 百万円の内数 平成 23 年度：1,152,750 百万円の内数		
所管	文部科学省	組織	文部科学本省	会計	一般会計	調査区分	本省調査
						取りまとめ財務局	—

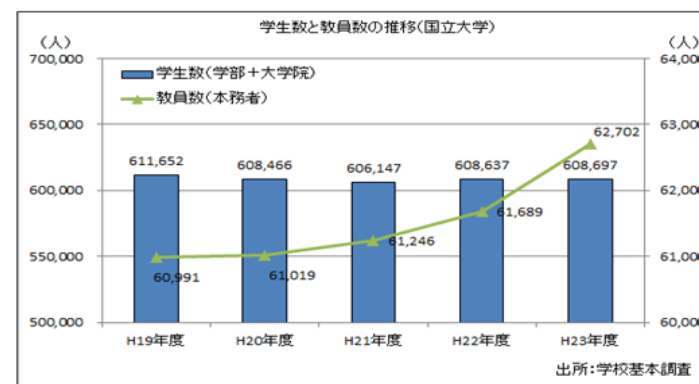
①調査事案の概要

【事案の概要】

- 学校基本調査によれば、国立大学の教員数は増加を続けている。

《参考①》学生数と教員数の推移（国立大学）

- ・ 右のグラフは、直近 5 カ年の国立大学の学生数と教員数の推移を示したもの。
- ・ 学生数はほぼ横ばいの傾向を示しているが、一方、教員数は増加を続けている。



- 大学設置基準により収容定員に応じて配置教員数が設定されているが、各大学の教員数を学部別、職種別、常勤・非常勤別などの視点から調査することにより、大学設置基準に比してどのような状況にあるのかをなど、教員数の実態を分析し、適正な教員配置について検討する。

《参考②》大学設置基準による教員数の算定例

- ・ 大学設置基準では、学部の種類毎に学科の収容定員に応じた教員数を設定しており、右の表における経済学部の教員数は以下のとおりとなる。
(経済学部に 2 学科 (○○経済学科、▲▲経済学科) を置き、それぞれの収容定員を 500 人と仮定)

○○経済学科	収容定員	500人	⇒	教員数	10人
▲▲経済学科	収容定員	500人	⇒	教員数	10人
計(経済学部)	収容定員	1000人		教員数	20人

○ 大学設置基準

学部の種類	2以上の学科で組織する場合の1学科の収容定員	
	収容定員	専任教員数
文学関係	200—400	6
⋮	⋮	⋮
経済学関係	400—600	10
⋮	⋮	⋮
理学関係	160—320	8
工学関係	160—320	8
⋮	⋮	⋮



○ 算定例

		経済学部
学 科 数		2学科
設置基準上の教員数		20人 <small>10人×2学科</small>

総 括 調 査 票

事案名 (16) 国立大学法人の教員数調査（国立大学法人運営費交付金）

②調査の視点

1. 教員数の推移

法人化時（H16年度）及び直近3ヶ年の専任教員数、常勤・非常勤教員数及び組織別の比較分析

2. 平成24年度教員数の分析

① 設置基準における必要とされる教員数と教員数の対比分析（専任数分析、常勤・非常勤数分析、分野別比較分析）

② 外国人教員数の推移及び分野別比較分析

【調査対象】

国立大学（86法人）のアンケート調査
（回答率：100%）

③調査結果及びその分析

1. 教員数の推移

専任教員数（学部・大学院の合計）は、年々増加している。組織別にみると、学部では教員数が減少となっている一方で、大学院では増加となっており、学部から大学院への配置転換が一因と考えられる。

推移を常勤・非常勤ベースでみると、学部・大学院のほか、附属病院や附置研究所などを含めた合計では教員数は増加している。

組織別では、学部・大学院では教員数が減少しており、大学における教育組織の教員数は減少しているものの、その他の組織で大きく増加している。法人化以降、その他の組織設置が進んでいることが一因と考えられる。

【表1 専任教員数（兼任教員含む）の推移[単位：人]】

	H16年度	H22年度	H23年度	H24年度	対H23	
					対H16	対H23
学部	45,187	44,307	45,200	44,890	▲ 297	▲ 310
大学院	54,244	58,943	60,211	61,172	6,928	961
合計	99,431	103,250	105,411	106,062	6,631	651

【表2 常勤・非常勤教員の推移[単位：人]】

	H16年度	H22年度	H23年度	H24年度	対H23	
					対H16	対H23
学部+大学院	73,962	71,069	71,399	71,019	▲ 2,948	▲ 380
附属病院	5,652	6,228	6,386	6,550	898	164
附置研究所	3,967	4,100	4,362	4,291	324	▲ 71
その他	12,250	14,856	15,353	15,748	3,498	395
合計	95,831	96,333	97,500	97,608	1,777	108
常勤	67,549	66,161	66,726	66,238	▲ 1,311	▲ 488
非常勤	28,282	30,172	30,774	31,370	3,088	596

2. 平成24年度 教員数分析

① 設置基準上必要とされる教員数（4.4万人）と教員数（10.6万人）の対比では、必要教員数に対して約2.4倍の教員が配置されている。これは、設置基準に従った調査結果であるが、設置基準上の必要教員数には兼任教員が含まれているため、実際の教員数として専任教員のみと比較すると約3,600人超過の約1.1倍である。また、常勤教員数と比較しても約3,800人超過の約1.1倍であり、常勤・非常勤をあわせると約27,300人超過の約1.6倍となり、実際の教員数でも必要以上の人数の教員が配置されている。
（※大学によっては、学部・大学院間で転籍をしているケースなどがあるため、全体動向は、学部・大学院間の合計値で分析）

【表3 平成24年度 教員数[単位：人]】

	必要数	教員数		常勤	
		うち専任	うち非常勤	うち常勤	うち非常勤
学部	21,889	44,890	17,618	31,508	15,607
大学院	21,800	61,172	29,629	39,511	31,867
合計	43,689	106,062	47,247	71,019	47,474

④今後の改善点・検討の方向性

個々の大学の特性を勘案すれば、配置教員数を一律とすることは適当ではないが、左記の調査結果から、大学における適正な教員配置の検討をする必要があるのではないかと考えられる。

1. 設置基準上の必要教員数と配置されている教員数との比較結果から、大学では必要教員数以上の教員が配置されている。

今後の学部学科の再編等においては教員数の現況を踏まえた検討が必要となる。

2. 分野別にみると、設置基準上の必要教員数と教員数の対比では、いずれの分野においても設置基準以上であり、最大で約4.7倍（常勤・非常勤教員数では約3.7倍）となる分野がみられる。

特に、個々の分野の特性を勘案しても、教員数が過大となっている分野では教員数の抑制を図るなど、教員の適正配置の観点からの検討が必要となる。

3. 外国人留学生を増加させるとともに、大学においても外国人教員数を増やし、国際化にも努めているところであるが、多くの分野で外国人教員比率は5%未満と低調になっている。

全体の教員数が過大とならないように抑制しつつ、国際競争力が望まれる分野では外国人教員比率を見直していく必要がある。

総 括 調 査 票

事案名 (16) 国立大学法人の教員数調査（国立大学法人運営費交付金）

②調査の視点

③調査結果及びその分析

④今後の改善点・検討の方向性

② 分野別に教員配置の状況を見ると、教員数では工学関係や医学関係が多いが、設置基準上の必要教員数と教員数の対比（表4 対比①）では文学関係が約4.7倍と最も大きく、次いで理学関係の約3.7倍と続いており、いずれの分野においても必要教員数を上回っている。

兼任教員を除く専任教員数との対比（表4 対比②）では、文学関係が約2.1倍、次いで理学関係の約1.7倍と続いている。また、常勤・非常勤教員数[※]（表4 対比③）でも、文学関係が約3.7倍と最も大きく、過大な教員配置をしている分野がみられる。

【表4 分野別の集計 [単位: 人]】

	文学	教育学	法学	経済学	理学	工学	農学	薬学	保健衛生学	医学	歯学	学際	合計
必要数	1,079	7,496	1,006	1,539	2,796	8,281	2,247	728	1,749	8,660	968	2,911	43,689
教員数	5,042	12,441	2,226	3,563	10,377	26,566	8,298	1,780	4,291	17,241	1,727	8,685	106,062
うち専任	2,238	6,316	1,116	1,795	4,733	11,714	3,446	839	2,278	6,015	514	3,846	47,247
常勤・非常勤	3,946	10,973	2,017	2,733	5,756	15,177	4,395	1,120	3,263	10,972	1,499	6,107	71,019
対比①	4.67	1.66	2.21	2.32	3.71	3.21	3.69	2.45	2.45	1.99	1.78	2.98	2.43
対比②	2.07	0.84	1.11	1.17	1.69	1.41	1.53	1.15	1.30	0.69	0.53	1.32	1.08
対比③	3.66	1.46	2.00	1.78	2.06	1.83	1.96	1.54	1.87	1.27	1.55	2.10	1.63

※ 対比①は、必要教員数と教員数の対比、対比②は必要教員数と兼任教員を除く専任教員数との対比、対比③は必要教員数と常勤・非常勤教員数との対比。

※ 家政関係、体育関係などの設置大学数が僅かな分野は記載を省略。

③ 外国人教員数は平成16年度の約2.5千人から平成24年度では約3.2千人に増加しており、うち約2.0千人は学部・大学院に配置されている。

分野別でみると、工学関係に約5百人、文学関係に約4百人と続いているが、各分野の教員数（常勤+非常勤）に占める外国人教員の割合は、文学関係が約10.5%と突出して高く、次いで経済学関係が約5.7%となっている。各分野の特性を考慮する必要があるが、分野別の外国人教員の配置状況には偏りがみられる。

【表5 外国人教員数の推移 [単位: 人]】

	1116年度	1122年度	1123年度	1124年度	対比	
					H16	H23
学部・大学院	1,631	1,802	1,872	2,025	394	153
附属病院	92	138	131	126	34	▲5
附属研究所	137	173	171	150	13	▲21
その他	604	889	899	902	298	3
合計	2,464	3,002	3,073	3,203	739	130

【表6 分野別の集計（外国人教員数） [単位: 人、%]】

	文学	教育学	法学	経済学	理学	工学	農学	薬学	保健衛生学	医学	歯学	学際
教員数	3,946	10,973	2,017	2,733	5,756	15,177	4,395	1,120	3,263	10,972	1,499	6,107
外国人教員数	416	237	48	157	110	518	78	18	22	151	9	296
比率	10.5	2.2	2.4	5.7	1.9	3.4	1.8	1.6	0.7	1.4	0.6	4.8